

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカルケアサービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井(東ユニット)		
所在地	静岡県袋井市堀越2-14-1		
自己評価作成日	令和7年1月12日	評価結果市町村受理日	令和7年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyoNoCd=2297300028-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺の環境面として、近隣に入居者様と一緒に散歩できる大きな公園があります。天気の良い日には、散歩などにも出かけて気分転換を図っております。飲食店やホームセンターなども車で5分以内の場所が多く、外出の機会を持ちやすい環境に恵まれているため、事業所以外の活動も定期的に行い、普通の生活が継続できるよう努めております。また、ご利用者様の心身の状況や認知症の症状について情報収集と分析を行い、適正量の水分摂取や栄養改善、運動などのプログラムを実地し、心身状態を整え、症状を改善、緩和させることによって、もう一度自分の思いを表出できるような状態を作り、ひとりひとりの当たり前の生活を実現することを目標とさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護職歴が24年となるベテラン職員が「事業所のいいところはアットホームなこと」と言い、「公園が隣接していて思いついたら散歩がしやすく、桜や藤の花を愛で、季節を親しむ環境にある」ことがアピール点だと、関係者の誰もが認識しています。毎月レクリエーションが励行され、節分などの時節行事や誕生日会、ハロウィンでは仮装も楽しみ、室内で納涼会として屋台を模したイベントもあって、利用者の元気の素がつくられています。そのようなことから利用者ですれ違ふと笑顔で挨拶して下さるほか、廊下で運動として踊っている人もいて、リビングではDVDを見て歌う集団もあり、元気で朗らかな様子に溢れている事業所です

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を掲げその理念を掲示しながら共有を図っている。	理念を以前は掲示していましたが、あつたら覚えなないと外したとのこと、最近は暗唱できるようになっています。毎月のユニット会議で読み上げるほか、テストの実施とともに、管理者から「理念についてどのように考えているか」を聞くようになっています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍も過ぎ、ボランティアの受け入れや、運営推進会議など再開したが、行事の参加はまだ少ない。	建物のオーナーから時節の差し入れがあったり、少し前までには数回お話ボランティアの訪問もあって、高齢者同士話に花が咲いていました。昨年は看護師を目指す学生の職場体験を1名受け入れた実績もあります	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームからの発信は今はなく、認知症相談窓口などの設置を今後行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で約5年ぶりの開催で、自治会員の方々も変わっており、まずは運営推進会議の目的を知って頂き、今後第4木曜日15:00~15:30開催で、短時間で効率よく話し合いができるよう心掛ける。	運営推進会議は昨年12月に開催したのみで、次回は今2月を予定しています。前回、行政や地域のメンバーに声をかけたもののコロナ禍で中断して間が空いた為か、十分に集まってもらえませんでした	「集まりがよくない」については、職員と法人内の他グループホーム管理者、家族に声をかけ、実績づくりを優先することも一考ください
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの連絡については、メール連絡が主であり、ホーム側からの連絡については内容の重要性を考え、電話やメール、実際に行政を訪問したりしている。	袋井市からの情報はメールで入っていて、随時チェックしています。事業所からは、食材費の高騰に係る厳しい運営状況を説明し、2月1日から料金を改定したことを報告するために行政窓口に向かっています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の研修や予防週間の設定を行い、身体拘束についての理解と予防を会社全体で行っている。	虐待防止・身体拘束廃止委員会を3か月毎に開催するとともに、本年度からは虐待防止委員も併催しています。法人が作成した動画や、「虐待・不適切ケア」「身体拘束」のチェックシートを通じた現状把握を欠かさず、ルーティーンとして定着させています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止と同じく3か月に1回の研修を行い、定期的に職員がストレスを抱えていないかヒアリングも行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回ではあるが、全体会議内で研修を行っている。なかなか制度自体を全て理解できるようなところまでは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書などの読み合わせを行い、説明を行っている。不明な点があれば、随時問い合わせに返答を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社にて毎年ご家族様アンケートを行い、状況を把握している。結果はホーム内に掲示する事と、問題点については対応策を検討し、ご家族様に対してもお便りにてアンケート結果を報告している。	「福来老通信」を毎月家族に届けるほか、面会が少ない場合は管理者から電話を入れるようにしています。また法人が年1回家族アンケートを実施しているので、直接事業所に言いにくい意見も入手できる仕組みがあります	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行い、職員の希望を確認している。契約社員については、契約締結前に必ず行っている。正社員については、随時行う形である。	管理者は「現場で声をかけ、挨拶は感謝を込めて」を心掛け、実践しています。職員からは「パットを大きいのにするとよく寝れる」といった提案や意見は必ず検討してもらっている」との話があり、安心して働けていることが確認されています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	部長代理にて、各ホームの点検を行い、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて研修を担当する部署があり、管理者の研修や、新卒スタッフの研修なども積極的に行っている。中途採用のスタッフについては、各エリアマネージャーが中心となり、研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は近隣の同業者との交流は少なく、今後相互訪問等の機会を持ち、サービスの向上に努めたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族に記入して頂いた情報をもとに、まずは傾聴を心掛けるようにしている。信頼関係を築く事を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームへ入居するに当たり、聞き取りが出来る範囲で困っている事、不安なことについて伺っている。しかし、家族関係などに言いにくいことなどがあつた場合、入居されてからわかる事もある為、随時調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランへ反映できることは行っているが、入居されてからわかってくることもある為、随時ケアプランへ織り込む形をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ひとりひとりの能力にあわせて役割を作り、責任感と自信を持って生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かがあれば、ご家族様にすぐに連絡し、来ていただいたりして、共に本人を支えていく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、利用者がお住まいだった近くのお店への買い物は、同行して頂いている。	家族だけでなく、兄弟や友人の来訪もあり、中には散歩コースに在る親戚の家に立ち寄る人もいます。琴が趣味である人は楽譜と一緒に持ち込んでいて、時折演奏していたり、またベランダで育てているトマトやきゅうりを楽しみとする人もいます	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などや性別なども考慮して、利用者同士が支え合って生活できるように努めている(職責の考慮など)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的には行っていないが、クレーム等の考えから、ご家族様から要望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話などから、思いや意向を知ることを心掛けているが、なかなか出ていない状況である。どうしても職員主導になりがちである。	利用者の発語は記録アプリに残し、共有しています。自前の携帯電話を毎日のように使う人が2名、洗濯に関わる人は4名、清掃に意欲をもつ人は2名と、日常生活の中でそれぞれがやりたいことを把握し、それができるよう支援しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りを行い、生活歴の把握に努めている(聞き取りは、ご家族様が主となる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時にアセスメントを行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス(ユニット会議)を行い、意見を出し合い、介護計画を作成している。ご家族様には電話は面会の時に話を伺っている。	介護計画書を作成にあたっては「実践できるか」に注視し、利用者と家族の希望を踏まえたうえで「少しかかるとを上げる」程度の目標とすることを軸としています。サービス担当者会議は毎月3名ほど実施されています	無論家族意見は介護計画に反映させていますが、サービス担当者会議のメンバーに家族は入っていないことから、今後は簡易なプラン面談が面会時に実施されることを期待します
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録があり、生活における記録をつけている。情報を共有しなければいけないことは書面にして伝えたり、連絡ノートに記入し、ユニット内での共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービスも2021年4月より開設。現在は人不足にて受け入れが出来ていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの取り組みだけにこだわらず、インフォーマルサービスを活用した取り組みも行っている。地域の納涼祭にも参加していたが、猛暑により参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認を行っているが、今までの所が良いようであれば無理に主治医の変更は求めている。しかし、実際には受診の付き添いの関係によりホームの往診を希望されるご家族がほとんどの状態。	在宅の頃のかかりつけ医から月1回の訪問診療にすべての利用者が変更しています。受診の場には医師が帯同した薬剤師と、週1~2回勤務の看護師が立ち会い、家族には「福来老通信」を通じて状況を伝えています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1~2回の勤務(8時間)ではあるが、限られた時間の中で体調管理を中心に行い、普段の状況を的確に伝えるように努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送される病院が開催する情報交換会には参加している。入院した際には、情報提供を社内の書式にて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応などについても、書面にて説明と同意を頂く書類を準備している。特に見取りについては、しっかりと説明を行っている。	「看取りに関する方針の指針」を備え、意向が確認されています。ただ、往々にして気持ちは変わるもので、「入院になるなら自宅に連れて帰りたい」という家族には、お見送りまでの最期の3日間は家族が居室に泊まり込めるようソファなどを手配して、支援しています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご家族様への緊急時連絡ファイルを整備し、急変で事故の発生に備えている。研修の中でシミュレーションを行い、実際に起こった時を想定し、対応方法を勉強した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に回の訓練(法律上の必要回数)を実施している。地域の方も参加できる形が良いが、まだ実施できていない状況。	水害含み法定訓練として年2回実施しており、夜間想定もおこなわれています。また、職員でない人が避難に加わるケースも想定され、居室入口には歩行状態を現わしたステッカーを貼る工夫があることも確認しました	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いの徹底を発信しているが、なかなかすべての職員が出来るわけではなく、改善が必要。	守秘義務については重要事項説明書に記載されています。職員の中には、フレンドリーを超えて言葉に課題を残す人もいて、管理者が面談をおこなってフォローしているものの、未だ大きな前進はみられません	課題を残す職員については利用者への感謝の気持ちがないことが大きな要因と推量しますが、癖で直らないとのことであれば、傍で耳に入ったら言い換えを他の職員が一致協力して実践することも検討ください
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話や表情やしぐさから、希望や思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務フロー的な部分で動いてしまう傾向があり、ご利用者様一人一人の希望に沿って出来ているわけではない。それに向けて努力は行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂き、お化粧品もされている。爪や髪などについても気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、お米研ぎ・盛り付け・配膳・食器洗いなど、お一人お一人に役割をもって行っている。	朝食の一皿のみレトルトを活用していますが、他は法人から届く献立に基づき手作りしていて、ハロウィンやクリスマスといった行事ならではの企画食にも熱心です。管理者はバナナミルクケーキを作ることがあり、評判が良いメニューとなっています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理については、本社にて献立を作成している。水分量は毎日チェック表をつけて管理している。(毎日1000mlは飲むように心掛けている)飲みすぎてしまう方もいるため、注意する場合もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科と口腔ケア(朝・夕が基本)を行い、誤嚥性肺炎などの予防を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとに排泄票をつけながら、排泄のパターンを理解しトイレでの排泄の援助や、失禁による不快な思いをさせないように努力を行っている。	立位が保てないなど何らかの理由があつてトイレでできない(ベッド上の交換)人が4名いることは残念ですが、歩行訓練をかねてトイレまで手引き歩行している人もいて、事業所では「できるだけトイレで」を続けていることが受け止められます	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を管理し、運動への働きかけは近くの公園などへ散歩に出かけている。日報への便秘日数記入により、職員の便秘への意識を高めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は午前中の中の入浴が主であるが、行事の関係や季節によっては外出を行う事をメインに、午後の時間に入浴を行う事もあり。その方にあつた声掛けにて入浴して頂き、無理強いはしない。	週2回が目安ですが、希望があれば入浴回数を増やす対応は可能としています。湯は一人ひとり全て入れ替えて毎回風呂窯も洗い、衛生を担保しています。入浴剤は「ゆず湯」「森の湯」「お茶の湯」を使用していて、浴室入口に今日の入浴剤の表示をしています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子を使用されている方や、足の浮腫が目立つ方は午後の時間など、横になって頂く機会を持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所に全利用者が処方されている薬の一覧を準備している。各ユニットにも処方内容が分かるようにコピーしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味的なことについては、その方が何が好きなのかを把握して、外出やホーム内での過ごし方に役立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍が落ち着いてきた矢先に、インフルエンザにて警戒状態が続いている。ご家族が望む場合は柔軟に対応している。	家族が外食などに連れ出してくださることも間々あります。事業所では日々の散歩の他にも、利用者のお大半が花が好きなおもあつて、桜を筆頭に紅葉狩り、コスモスといった花見散策に出掛けています	散歩の回数をカウントするようにしているものの、忘れがちのことです。家族への報告を自ら課すなど、また散歩カレンダー制作といった工夫があることを期待します

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、職員が管理しているが、外出時にお金を手渡し払って頂くこともある。しかし、被害妄想などのある場合などには、出来ない場合が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があれば、事務所など落ち着いた場所でかけてもらうようにしている。手紙については、書かれる方が少なく積極的には行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに四季にあった飾りつけをしたり、室温についても、温度管理に気を配っている。	リビングは食事時には食堂、普段は体操教室になったりと、皆で過ごす空間として多目的に活用されています。リビングでの体操は、午前と午後一日2回位置づけ、ニンニン体操(忍者の体操)が利用者のお気に入りです	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやご自分の席で過ごされたり、気の合った利用者同士での居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から持って来られるものは持って来て頂き、自宅の部屋を再現できるように、家族へお願いしている。入居されてからも、同船を意識しリスクの少ないレイアウトを心掛けている。	ソファー、テーブル、テレビ、家族写真などが持ち込まれ、珍しいものとしては芸者をしていた人の三味線や、趣味だった狩猟の捕獲品のはく製が置かれた部屋もあります。以前化粧品販売をしていた人は乳液などを並べて毎日化粧をしているとのことです	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドサイドの手すりのレンタル(車椅子使用の方)や言葉のカードの作成(難聴の方)など、相手の気持ちになり、極力自立した生活が出来るように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカルケアサービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井(西ユニット)		
所在地	静岡県袋井市堀越2-14-1		
自己評価作成日	令和7年1月12日	評価結果市町村受理日	令和7年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyoNoCd=2297300028-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和7年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺の環境面として、近隣に入居者様と一緒に散歩できる大きな公園があります。天気の良い日には、散歩などにも出かけて気分転換を図っております。飲食店やホームセンターなども車で5分以内の場所が多く、外出の機会を持ちやすい環境に恵まれているため、事業所以外の活動も定期的に行い、普通の生活が継続できるよう努めております。また、ご利用者様の心身の状況や認知症の症状について情報収集と分析を行い、適正量の水分摂取や栄養改善、運動などのプログラムを実地し、心身状態を整え、症状を改善、緩和させることによって、もう一度自分の思いを表出できるような状態を作り、ひとりひとりの当たり前の生活を実現することを目標としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護職歴が24年となるベテラン職員が「事業所のいいところはアットホームなこと」と言い、「公園が隣接していて思いついたら散歩がしやすく、桜や藤の花を愛で、季節を親しむ環境にある」ことがアピール点だと、関係者の誰もが認識しています。毎月レクリエーションが励行され、節分などの時節行事や誕生日会、ハロウィンでは仮装も楽しみ、室内で納涼会として屋台を模したイベントもあって、利用者の元気の素がつくられています。そのようなことから利用者ですれ違ふと笑顔で挨拶して下さるほか、廊下で運動として踊っている人もいて、リビングではDVDを見て歌う集団もあり、元気で朗らかな様子に溢れている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を掲げその理念を掲示しながら共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍も過ぎ、ボランティアの受け入れや、運営推進会議など再開したが、行事の参加はまだ少ない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームからの発信は今はなく、認知症相談窓口などの設置を今後行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で約5年ぶりの開催で、自治会員の方々も変わっており、まずは運営推進会議の目的を知って頂き、今後第4木曜日15:00~15:30開催で、短時間で効率よく話し合いができるよう心掛ける。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの連絡については、メール連絡が主であり、ホーム側からの連絡については内容の重要性を考え、電話やメール、実際に行政を訪問したりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の研修や予防週間の設定を行い、身体拘束についての理解と予防を会社全体で行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止と同じく3か月に1回の研修を行い、定期的に職員がストレスを抱えていないかヒアリングも行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回ではあるが、全体会議内で研修を行っている。なかなか制度自体を全て理解できるようなところまでは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書などの読み合わせを行い、説明を行っている。不明な点があれば、随時問い合わせに返答を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社にて毎年ご家族様アンケートを行い、状況を把握している。結果はホーム内に掲示する事と、問題点については対応策を検討し、ご家族様に対してもお便りにてアンケート結果を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行い、職員の希望を確認している。契約社員については、契約締結前に必ず行っている。正社員については、随時行う形である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	部長代理にて、各ホームの点検を行い、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて研修を担当する部署があり、管理者の研修や、新卒スタッフの研修なども積極的に行っている。中途採用のスタッフについては、各エリアマネージャーが中心となり、研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は近隣の同業者との交流は少なく、今後相互訪問等の機会を持ち、サービスの向上に努めたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族に記入して頂いた情報をもとに、まずは傾聴を心掛けるようにしている。信頼関係を築く事を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームへ入居するに当たり、聞き取りが出来る範囲で困っている事、不安なことについて伺っている。しかし、家族関係などに言いにくいことなどがあつた場合、入居されてからわかる事もある為、随時調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランへ反映できることは行っているが、入居されてからわかってくることもある為、随時ケアプランへ織り込む形をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ひとりひとりの能力にあわせて役割を作り、責任感と自信を持って生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かがあれば、ご家族様にすぐに連絡し、来ていただいたりして、共に本人を支えていく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、利用者がお住まいだった近くのお店への買い物は、同行して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などや性別なども考慮して、利用者同士が支え合って生活できるように努めている(職員の考慮など)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的には行っていないが、クレーム等の考えから、ご家族様から要望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話などから、思いや意向を知ることを心掛けているが、なかなか出ていない状況である。どうしても職員主導になりがちである。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りを行い、生活歴の把握に努めている(聞き取りは、ご家族様が主となる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時にアセスメントを行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス(ユニット会議)を行い、意見を出し合い、介護計画を作成している。ご家族様には電話は面会の時に話を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録があり、生活における記録をつけている。情報を共有しなければいけないことは書面にして伝えたり、連絡ノートに記入し、ユニット内での共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービスも2021年4月より開設。現在は人不足にて受け入れが出来ていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの取り組みだけにこだわらず、インフォーマルサービスを活用した取り組みも行っている。地域の納涼祭にも参加していたが、猛暑により参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認を行っているが、今までの所が良いようであれば無理に主治医の変更は求めている。しかし、実際には受診の付き添いの関係によりホームの往診を希望されるご家族がほとんどの状態。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1~2回の勤務(8時間)ではあるが、限られた時間の中で体調管理を中心に行い、普段の状況を的確に伝えるように努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送される病院が開催する情報交換会には参加している。入院した際には、情報提供を社内の書式にて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応などについても、書面にて説明と同意を頂く書類を準備している。特に見取りについては、しっかりと説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご家族様への緊急時連絡ファイルを整備し、急変で事故の発生に備えている。研修の中でシミュレーションを行い、実際に起こった時を想定し、対応方法を勉強した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に回の訓練(法律上の必要回数)を実施している。地域の方も参加できる形が良いが、まだ実施できていない状況。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いの徹底を発信してはいるが、なかなかすべての職員が出来るわけではなく、改善が必要。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話や表情やしぐさから、希望や思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務フロー的な部分で動いてしまう傾向があり、ご利用者様一人一人の希望に沿って出来ているわけではない。それに向けて努力は行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂き、お化粧品もされている。爪や髭などについても気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、お米研ぎ・盛り付け・配膳・食器洗いなど、お一人お一人に役割をもって行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理については、本社にて献立を作成している。水分量は毎日チェック表をつけて管理している。(毎日1000mlは飲むように心掛けている)飲みすぎてしまう方もいるため、注意する場合もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科と口腔ケア(朝・夕が基本)を行い、誤嚥性肺炎などの予防を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとに排泄票をつけながら、排泄のパターンを理解しトイレでの排泄の援助や、失禁による不快な思いをさせないように努力を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を管理し、運動への働きかけは近くの公園などへ散歩に出かけている。日報への便秘日数記入により、職員の便秘への意識を高めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は午前中の中の入浴が主であるが、行事の関係や季節によっては外出を行う事をメインに、午後の時間に入浴を行う事もあり。その方にあつた声掛けにて入浴して頂き、無理強いはいはしない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子を使用されている方や、足の浮腫が目立つ方は午後の時間など、横になって頂く機会を持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所に全利用者が処方されている薬の一覧を準備している。各ユニットにも処方内容が分かるようにコピーしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味的なことについては、その方が何が好きなのかを把握して、外出やホーム内での過ごし方に役立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍が落ち着いてきた矢先に、インフルエンザにて警戒状態が続いている。ご家族が望む場合は柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、職員が管理しているが、外出時にお金を手渡し払って頂くこともある。しかし、被害妄想などのある場合などには、出来ない場合が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があれば、事務所など落ち着いた場所でかけてもらうようにしている。手紙については、書かれる方が少なく積極的には行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに四季にあった飾りつけをしたり、室温についても、温度管理に気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやご自分の席で過ごされたり、気の合った利用者同士での居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から持って来られるものは持って来て頂き、自宅の部屋を再現できるように、家族へお願いしている。入居されてからも、同船を意識しリスクの少ないレイアウトを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドサイドの手すりのレンタル(車椅子使用の方)や言葉のカードの作成(難聴の方)など、相手の気持ちになり、極力自立した生活が出来るように配慮している。		